

F A B

【ファブ】

FREE AWAJI BOOK 8890

2022

12

淡路町を、
神田を、
もっと楽しいまちに。

SPECIAL INTERVIEW

末永幸歩

ワテカツ、好評開催中



04

末永幸歩

SPECIAL INTERVIEW

「アート思考の育み方」

「自分だけの答え」が見つかる 13 歳からのアート思考』（ダイヤモンド社）の著者であり、美術教師・研究員・アーティストとして活動する末永幸歩さん。
多くの読者に影響を与えた「アート思考」とはどのような考え方なのか
「日本の美意識」や「アートと街の関係」についても伺いながら、
その育み方を教えて頂きました。

12

ワテカツ、好評開催中

2022 年秋から始まったワテラスのイベントシリーズ「ワテカツ」。
開催済みの 4 イベントをレポートします。

CONTENTS

08 KANDA ODEKAKE MAP

10 秋のこども大学 開催レポート

editor
橋口 文 Jo Hashiguchi

illustrator（裏表紙）
川目 七生 Nanami Kawame



末永幸歩 Yukiho Suenaga

「アート思考の育み方」

(聞き手・文〇ワテラスチューデントハウス 林美月 写真〇小林玲)

末永さんが考える「アート思考」とはどのようなものか教えて頂けますか？

アートと言われると、ふつう絵や彫刻などの「作品」を思い浮かべると思うんですけど、「作品」だけではなくて、その作品が出来上がる過程に目を向けるのがアート思考です。「13歳からのアート思考」という本では、アート思考を「自分なりのもの」の見方で世界を捉えて、自分なりの答えを作って、それによって新たな問いを生み出すもの」と定義しています。

「自分なりの」というのがポイントなんです。もうすこし「アート思考」についてお聞きしたいのですが、そのような考えにたどり着いた、末永さんのアート体験があれば教えてください。

いろいろありますが、『13歳からのアート思考』で取り上げたような、20世紀のアート作品でしょうか。ざぱりこれ、という作品があるわけではないんですけど、ピカソをはじめとして、20世紀のアーティストたちに影響を受けました。私は

もともと美術大学の出身で絵画の制作をしていたんですけど、当時は、良い作品を作って、それが売れるようになるというとか、そのためには作品をたくさん作らなきゃと、表層的なことばかりに目がいつていたんです。

でも、ピカソの作品を見たときに、単に綺麗とか、独自性があるなどといった言葉では片づけられないものがあることに気が付きました。でもそれが何かはわからなくて、そんなことを考えていると、だんだん迷いが大きくなり、少しずつ絵が描けなくなってしまう。絵画を専攻していたものの、徐々に絵を制作するということから離れていったんです。

一方で、美術史に興味を持つようになって、いろいろ本を読んだりしていたら、作品が生み出される過程にこそアートの本質があると思うようになりました。アーティストにどんな興味や疑問があったのかに目を向けるようになったんです。アーティスト自身がそれらをどう探究し、充実させていったかが、優れたアートの

品を生むうえで大切になるのではないかと気が付きました。この気付きの重要性は、アートに限りません。仕事や日常生活でも、私たちが自分の興味や疑問に誠実に向き合って考え探究するということができていれば、結果、これまでにない価値を持ったアウトプットが生まれることもあるだろうと思うんです。遠回りを恐れずに、アウトプットに至る過程こそが大切と考えるのが、「アート思考」だと考えています。

私たちがアートを鑑賞するとき、どのような心持ちでいればよいのか、末永さんのおすすめはありますか？

アートを鑑賞するとき、単純な情報収集や受け身でインプットするのに留まっていたら、作品に広がりがありません。作品の横にある解説を読むだけで納得してしまうような見方です。おすすめしたいのは、「私はどう思う？」を考えてみることです。本にも書いたように、私は自分だけの答えを作ることすごく大事にしているんですが、そのためにどうした

らいいのかというと、自分の考えを持つたうえで、一度壊すことが肝心だと思っています。

ピカソの有名な言葉で、「どんな創造も、最初は破壊からはじまるものだ」という言葉があります。創造って自分なりの答えじゃないですか。自分なりの答えを持つためには、まず自分なりの考えを作ってみて、その上で今度はいろんな方法で壊していく。例えば他の人と対話することによっても、全然違う考え方に会えるわけだから、自分の考えを壊すことができるチャンスですよ。

だから、鑑賞をして他の人と話し合うことも有効だと思うし、作品の作者の考えを知ることとも良いと思います。まず作品と向き合って、「私はこう思う」という考えを持って、それをいろいろな方法で壊して、更に強い「私はこう思う」を作っていけたら良いですね。それが次第に「自分なりの答え」になっていくのではないのでしょうか。

最近は「映える」など様々な目的で美術館に訪れる人が増えていますが、そのような傾向をどう思いますか？

アート思考を育む、という観点で考えたとき、ただ「映える」という目的で多くの人が美術館に訪れるというのはいさぎよく意味がないのかなと思います。実は、「映え」が流行るずっと以前から、日本は美術館大国と言われていて、世界と比較しても美術館の数は多いし、大型の企画展の動員数もとても多い。



でも、日本人が一枚の絵画を美術館で観る平均的な時間はすごく短く、調査ではたったの10秒という結果が出ているんです。写真を撮って満足してしまっただけ、その傾向は強まる一方だと思います。また、10秒以上観ている人がいたとしても、解説ばかり読むなど正解探しをしてしまっている場合が少なくない。そのような鑑賞は、自分なりの答えを作るところからは遠ざかってしまっているように感じます。

日本以外でこの国・街はアートと融合している、と思われる場所がありますか？

きっと誰でも思うかもしれませんが、ヨーロッパに行ったときには、街に建築物や彫刻が溶け込んでいて、本当に街全体がアートだな、と感じますよね。ヨーロッパから帰ってくると、日本ってなんて味気ないんだろう、アートが全然ないってがっかりしたりする（笑）実際私もそうでした。

でもその後、日本の美術について考えたときに、西洋の街がアートと融合して

いて、日本や東京がそうではないというわけでもないかと思いついて。街や風景に違いがあるのは、日本と西洋の美に対する考え方に違いがあるからと今は思っています。

例えば、西洋美術の歴史をみると、西洋では「美は実物として存在する」っていう考えが定着していて、だから、それを人の手で作ることもできるって考える。たとえば、古代ギリシャ時代から黄金比というものが追求されてきたのも、美は存在し、作ることができると思っていくからじゃないですか。ですから、そのように美しいものには価値があつて、永続的に保存しておくべきと考えるわけですよ。ミュージアムが西洋で生まれたのもうなずけます。

一方、日本はどうなのか。日本は美しいものが実体として存在するんじゃないかと、人の心の中にその瞬間宿るっていうふうに考える。例えば日本の伊勢神宮って、千数百年の歴史があるんですけど、20年に一回ずつ、神が鎮座する宮所を建

た。

でも、ウォーホルは、20世紀の終わりでですけど、そもそもアートという枠組み自体なかったんじゃないかということを人々に問いかけたんです。つまり、現代を生きる私たちがどうアートに接するべきかという、私たち自身が、自らの物差しをもって選択していかなければならない。さきほどの日本の美意識的な考えに近いんですけど、アートであるかないかは受け手にかかっているというか、観る人がそれをアートであると思えばどのようなものでもアートになり得る、その中に美しさを見いだすことができる、アートかどうかと問うこと以上に素晴らしいことだと思います。

で替えています。ものや建築物自体が大切なんじゃないくて、心や精神があればいいと思うからこそ、建物が変わったとしても同じものとして捉えることができるんじゃないかと思います。

物体が有する美しさじゃなくて、人の中に美を感じる心があるというところに日本の美意識の土台があるのかなって。だからこそ西洋みたいに保存するっていう考えはあまりないのかもしれないし、建築物も長く残しておこうっていう感覚がないのかもしれない。だから今は、日本がヨーロッパみたいに古い街並みがないとか、アートがないと落胆する必要はないと思っています。

最近では、街中にパブリックアートを見ることも多くなりました。パブリックアートが放つ唐突感や面白さを止めてしまいうこともありますか？

現代人が日常で触れるものは大抵は便利なものとか、役に立つものですね。一方、街中にあるアート作品は全然便利ではないし、ときには邪魔になるような

ものもあるじゃないですか。合理性だけで考えると、除いた方がいいかもしれない。でもアートが街にあることによって、ある目的によって一方向に進んでいるところにもまったく違う流れが出てくる。立ち止まってもう一回自分なりのものの方で作品や周りの自然、人の営みを見てみるのが、豊かな生き方に繋がっていくのではないかと思います。アートはミュージアムの中だけにあるのではなく、アンディ・ウォーホルという20世紀のアーティストをご存知の方も多いと思います。美術史を見ると、ある時点まではアートの枠組みがはつきりしていました。ウォーホル以前のアーティストたちは、その枠組み自体はなんとなく認識していて、その枠組みの中にこんなものを入れていいんじゃないか、みたいな戦いをしてきた。例えばマルセル・デュシャンが男性用の便器を『泉』と名付けて、これだつてアートって言えるんじゃないか、と入れようとし

末永幸歩

すえなが・ゆきほ
美術教師、東京学芸大学個人研究員、アーティスト。東京都出身。中学・高校の美術教師としての経験を活かし、アートを通して「ものの見方を広げる」ことに力を置いていたユニークな授業を展開。著書に18万部のベストセラー『13歳からのアート思考』（ダイヤモンド社）がある。

Gallery 蔵

千代田区神田駿河台 4-6 御茶ノ水ソラシティ
【学生おすすめコメント】
一年中様々なアート展示を見ることが出来る場所です！
写真展だったり生け花だったり他にもたくさん！ 蔵の中だけでなく外にも展示されているので、歩きながら気軽にアートを楽しめる場所です♡

昌平橋

【学生おすすめコメント】
流れて行く時間を見つめられる、橋から360度の景色が好きです。
橋の四方を電車が交差して流れていき、人工的な緑色の鉄橋と年季の入った赤の高架橋が目に入ります。流れ続ける神田川の水面は時間によって映す空の色を変化させていき、人や車が行き来しています。ここで佇むと人の暮らしの「時間」と川や街の歴史の大きな「時間」をより感じられるような気がします。

明治大学 現代マンガ図書館

千代田区神田猿楽町 1-7-1

【学生おすすめコメント】
1928年から現代のマンガまで、18万点を超える資料を収蔵。
元は神田生まれの故・内記穂夫氏が1978年に日本初となる「マンガ専門図書館」を設立し、そのコレクションが明治大学に寄贈され、現在の名前となった。特別展示等も行われています。

旧万世橋駅・マーチエキュート

千代田区神田須田町 1-25-4

【学生おすすめコメント】
赤煉瓦のアーチが美しい神田万世橋。旧万世橋駅の歴史と記憶を感じることができるノスタルジックな雰囲気と、カフェやショップが並びモダンな雰囲気を兼ね備える。階段を登ると行き交う電車を眺めることもでき、あなただけの特別な時間を過ごせます。

ワイルドシングス - 地形の魔力

ワテラス広場

【学生おすすめコメント】
ワテラスの広場に入ると、作品の高さと広がりによって地面から空へと視点がゆき、晴れた日には作品の白色と、空や建物の青色のコントラストが気持ちよく見えてきます。また、ゆったりとした曲線のフォルムがこの広場で過ごす時間を柔らかなくのびのびとさせてくれる気がします。

ワテラスチューデントハウス学生がピックアップ アートが感じられる場所

「アート」をテーマにした今号にあわせて、ワテラス周辺で「アートを感じる場所」を学生目線でピックアップしました。



過冷却の実験を子どもたちに見せる学生

15:00 ヨーヨー釣り

科学教室とクラフト教室の企画の入れ替え時間に行ったヨーヨー釣り。ヨーヨーがお土産になるだけでなく、取ったヨーヨーによってお菓子をもらえるようにすることで二重で喜んでもらえる工夫をしました。空き時間もうまく活用して、楽しんでもらえました。



ヨーヨー釣りの準備を行う学生



自由に絵を描く子どもたちと学生と子どもたち

取材した人



参加してくれたお子さんはみんな素直で、学生の言うことを聞いてくれるいい子たちばかりでした。親御さんたちも非常に協力的で、素敵なイベントができて良かったです。(取材・文／ワテラスチューデントハウス 田中佑太)

13:30 科学教室

最初に行われたのが、理系の学生を中心に実施した科学教室。今回は過冷却、スライムづくり、空気砲と三つの実験を行いました。一番盛り上がったのがスライムづくり！ 学生が実験を見せるよりも、自分で行う方が子どもたちは夢中になってくれました。



須田町北部町会とワテラスチューデントハウスのコラボイベント

秋のこども大学 10.15 須田町北部会館にて Sat. 盛会裏に終了



主催○須田町北部町会
運営○ワテラスチューデントハウス学生
協力○淡路エリアマネジメント

大学生が開く子どもへの特別授業

コロナ禍で減ってしまった地域と学生の交流が再び始まりました。今回のイベントは須田町北部町会の青年部からお話をいただき、開催に至りました。その中でも「コロナで最も時間を失ったのは学生を含めた子どもたち」という青年部の方の考えから、イベントは学生が中心となって地域の子どもの向けに何かできることをするという流れに。学生の得意な分野で考えた結果、これまで学んだことを活かして子どもたちに教えるという「こども大学」のコンセプトが決まりました。当日行ったのは科学教室、ヨーヨー釣り、クラフト教室の三つの企画。町会の方には、地域の子どもたちへの声掛けや企画の構成段階での助言をいただき、当日の運営もサポートいただきました。青年部の方は実際にお子さんがいらっしゃる方も多く、親視点でのアドバイスは非常に参考になりました。当日は20名程度の子どもたちが訪れてくださり、大盛況で終わりました！

2 11.21 Mon. 石川寛美さん(キャラメルボックス劇団員) 「演劇ワークショップ入門編 テーマ：人前での緊張を味方に」



石川寛美さんによる演劇ワークショップを開催しました。今回は入門編ということで、身体を動かしたり、声を出したりしながら演劇を体験。はじめは、やや緊張気味だった参加者もだんだんと心を開いていくことができ、後半には「自分らしく演じるとは？」というところまで考えることができました。参加者からは、「新しい発見があった」などの声が寄せられ、大好評でした。

3 11.25 Fri./27 Sun. 高田 秋さん 「高田秋のPOP-UP MARCHE」

タレントの高田秋さんがプロデュースした日本酒「秋華七」の試飲や販売会を2日間にわたって開催しました。日本酒プロデュース第2弾となる今年は、「彗星」と「きたしずく」の2種でリリース。ほかには、函館の老舗レストラン「五島軒」とコラボした「秋華七酒粕カレー」なども販売。当日は日本酒を学ぶワークショップやラジオ公開収録など多様なプログラムが組まれ、大盛況になりました。



4 12.6 Tue. 新谷 学さん(「文藝春秋」編集長)×茂木健一郎さん(脳科学者) 「ふりかえり 激動の2022」



「文藝春秋」編集長の新谷学さんと脳科学者の茂木健一郎さんによる対談トークショーを開催しました。さまざまな出来事があった2022年を振り返ろうという趣旨のこのイベント、話題は週刊誌の役割やジャーナリズムにもおよびました。さらには、このふたりにしかできないマル秘話も……。当日は多くの参加者で賑わい、質疑応答では聴衆の積極的な参加が印象的でした。

\\ ワテカツ、好評開催中! //



この秋から始まったワテラスの定期イベントシリーズ「ワテカツ」(一般社団法人淡路エリアマネジメント主催)、すでにご参加されましたか?
ワテカツとは、「ワテラスで、いろいろお試しする活動」のこと。新しい趣味を見つめたり、知見を広めたり、交友関係を築いたりできるような企画を考えています。今回は、開催済みのワテカツイベントをご紹介します。まだご参加されたことがない方も、ぜひお気軽に立ち寄ってくださいね。

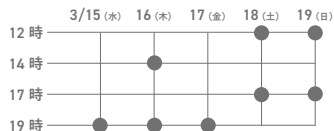
1 10.5 Wed. 城彰二さん×清水英斗さん×田中真琴さん 「直前・カタル W 杯! 日本代表・ベスト8への道」



2022年はサッカーカタル W 杯の年ということで、YouTubeチャンネルでも人気のサッカー元日本代表の城彰二さんをメインゲストに、サッカーライター・清水英斗さん、女優・田中真琴さんを迎えて日本代表の現在地とこれからについて徹底討論しました。



CAST: 坂口理恵 岡田さつき 石川寛美 くぼなつみ (ピアノ演奏)



■料金：前売 当日 4800 円 高校生以下 1500 円

■発売：1/15 (日) 12:00 ~

チケット予約ほか詳細についてはワテラス公式 HP よりご確認ください。



Our Community

淡路町を、神田を、もっと楽しいまちに。

WATERRAS BOOK FES 2022

ワテラスブックフェス 開催

主催：一般社団法人淡路エリアマネジメント 共催：一般財団法人出版文化産業振興財団 (JPIC) 協力：安田不動産株式会社



今年で4回目となるワテラスブックフェスを10/22 (土) ~ 11/6 (日) に開催しました。今年も多様なジャンルのゲストをワテラスにお招き。10/29 (土) には侍ジャパン監督で、読書家としても知られる栗山英樹さんが来館。イベントは動画でもご覧いただけますので、ワテラスブックフェス公式サイトよりご視聴ください。



ワテラスチューデントハウスの学生もイベントに登壇しました！



社会学者・大澤真幸さんをお招きした「ブルシットジョブと日本」の様子。大澤さんと対談する田中唯翔さん。



作家・あさのあつこさんをお招きした「弥勒シリーズの魅力を読み解く」の様子。あさのさんと対談する鈴木愛子さん。



ライター・藤吉豊さんをお招きした「勉強法のベストセラー100冊」を徹底分析して見てきた極意とは？で対談相手として登壇した、秋月孝太さん、大木咲貴子さん。



劇作家・平田オリザさんをお招きした「ともに生きるために、なぜ演劇が必要なのか？」で対談相手として登壇した、永井里歩さん、中川真輝さん。



WATERRAS

人情・情緒を引き継ぎ
大きなコミュニティをはぐくむ



FAB

フリーマガジン 8890
No.37 (2022.12.20 発行)

発行：一般社団法人 深路エリマ・ネジメント
〒101-0063 東京都千代田区神田深路町2-105 ワテラスエリマ・ネジメント
TEL 03-3526-3883 FAX 03-3526-0090 www.waterras.com

¥0